

日本東亞同文書院編

(第十六冊)

中國省別全志

綫裝書局

第十六册

第八卷 河南省(二) 大正七年 一九一八年 東亞同文會 一

第八卷

河南省

(二)

大正七年
一九一八年
東亞同文會

第四編 農工業及鑛産

第一章 概説

前清戸部の調査に據れば河南省の耕地は七十一萬八千二百〇八頃ありと稱す、而して其大部分は乾田にして麥、高粱、稷、玉蜀黍、棉花、豆等を産し、米は淮河、白河等の流域に産す、農産物は全省到る處に産すれども殊に懷慶、南陽一帶及び洛河流域を以て最も多しとす、河南平野は有名なる麥の産地にして其の産額は支那第一に位し日本全國の産額に匹敵すと稱せらる。

棉花の産額も亦多くして近時俄に河南棉の名漢口、上海等の市場に喧傳せらるゝに至れり、是れ阿片栽培禁止の結果其の産額を増加したるに依るものとす、其他芝麻、大豆等の雜穀類も年々多額の輸出あり。

農民の生活程度極めて低く、洛陽附近に於ては穴居多し、是れ此の地方の土層が坑を鑿つに易く、且雨水を浸透するの患なく、加ふるに材木の缺乏せるに因る、

穴居せざるものは一部落をなし、土塋を繞らし、家は土製にして屋根には高粱の稈を並べ、其の上を普通の土にて掩へり、宜陽以西穴居少し、常食は麥粉製の燒餅、麩、高粱、包米(玉蜀黍)等にして、一日五、六十文にて生活するを得、宿錢の如きは十文乃至三十文を以て足る。

蠶業は南陽、洛陽附近稍盛んなれども、宜陽以西は殆ど飼養せず、洛河以南伏牛山一帯は櫟の木を産し、野蠶の飼養行はる。

牧畜は山間の農民が副業として牛、豚、羊を飼養するものとす。

林業に至つては山殆ど禿山にして、何等森林の見るべきなく、之が爲め洛水に沿ふて陝西に出づる道路の如きは雨一度至れば濁水滔々として漲り、道を塞ぎ耕地を洗ひ去る、住民は平地にある楊柳の枝葉及び雜草を薪として得るの外、地方より出づる石炭を用ゆ。

第二章 黄河沿岸の農業

第一節 耕地及水利

鄭州以西の地に於ては全く水田を見しことなし、是れ其の灌漑の便なきを以てなり、鄭州より洛陽、新安、澠池附近に至る間は河南北邊の大平野中に位し、農業は全く大農的にして且平野は殆ど耕耘し盡され、今後開拓せらるべき餘地を見ず、澠池附近より以西は、所謂河南西北隅の山丘地にして、陝州附近よりは漸く高台性の平野をなし、潼關附近に近づくに従ひ、耕耘地を減少し荒地漸く増加す。同地方一帯に於て作付反別の尤も多きものは棉花にして洛陽附近及鄭州附近のものは、隴海鐵道の一驛汜水縣を其の集散地として取引せらる。

棉花に次ぐものは麥にして澠池附近は麥の集散するもの多く、外省へ向け移送せらる、就中山東及湖北向のものを主となす、本地方の麥は五月に收穫を終り農夫の運來せるものを當地糧食店に於て買集す、而して品質に依りて等級を定むることなく、一包百七十斤内外の麻包に荷造せらる、沿河地方は麻の栽培亦多く、袋用に供せられ麻袋は一個約五百文なり。

澠池には乙種農業學校あり、小學教育に農業教育を加味し、兒童は多く十四五歳以下にして約四、五十人あり。

今鄭州以西の通過地の農家戸數及耕地畝數を舉ぐれば次の如し。

地名	農戸	耕地畝數	園圃畝數
開封縣	一、〇五一、〇〇〇 _戸	二、〇八九、九五六 _畝	九九五、三六八 _畝
商邱縣	八三、五五〇	六七、〇〇〇	一一〇、〇〇〇
鄭州	二三、八七九	三一五、五六四	九九、四九九
洛陽	七三、九五〇	三、九五六、七四五	二九六、〇五一
新安	七、〇二〇	一六七、九三九	一〇三、九〇四
澠池	九、九七〇	一、五三九、三四一	一五四、三四五
陝州	二〇、〇二〇	一二〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇
閿鄉	一〇、八九〇	一、三〇五、〇〇〇	一〇五、一〇〇
靈寶	九一、四九五	一三四、四八一	一三五、三〇〇
潼關	六、四二八	五六八、五九九	一二五

鄭州以東開封、歸德、徐州、江蘇附近一帶は土地一般に砂質なるも肥沃にして農産は豊富なり、歸德附近は瓜子の産多く盛に外商の來りて取引する所なり、開封

府城附近は野菜を栽培する地比較的多く、府城に供給す、而して開封以東、歸德より徐州に至る一帯は洪水の被害毎年甚だしき地方にして、大正五年の如きも一帯湖水と化し、如斯事は稀ならず。

次に河南省の河北に屬する懷慶附近の農業狀況を見るに、同地一帯は省内最も肥沃の土地と稱せられ、其の田畑に付て實際を觀察するに、農作物の如きは著しく發育良好なり、殊に此地一帯には稻の栽培せらるゝを見る、而も河南北部及山西南部の地に於て未だ見ざる稻田とす、然れども灌漑の利少なきを以て十分なる能はず、若し灌漑の便をだに得ば良好なる稻田となし得るの資格を具備するものと云ふべし、其他煙草の栽培せらるゝもの多少ありしが、其の質は山西産に比し甚だ良質なるが如し、之に亞ぎ高粱多し、然れども此の地方棉花の栽培せらるゝものを見ず。

今府下諸縣の農家戸數及農作地畝を示せば次の如し。

縣名	農戶	耕地畝數	園圃畝數
沁陽	三三、三八〇	六五二、五六五	一五六、三九九

濟源	三九、六五〇	四八〇、五三三	一四〇、〇〇〇
修武	二五、〇三〇	一、一五〇、四三二	一六九、九三四
武涉	四七、〇五〇	四四〇、五〇一	一二四、〇一〇
孟	一〇九、三五〇	九五六、五三一	一一一、〇三〇
溫	一〇、三五〇	四三二、五〇〇	二三九、九九〇
原武	九、九七〇	三四五、〇〇〇	一一〇、〇五〇
陽武	一四、四三五	二八五、〇〇一	一一九、三四一

此の地方に於ける水利は實に不便なるものにして、夏季畑地への灌水は農民の最も力を盡す處なり、而して此の灌水の要は山西南部に於て殊に著しき風あり、即ち道路に沿ふて一町程行く毎に灌水用の井あり、井は此の邊の土壤にては掘りたるのみにて足り、深さも五、六間を出でず、而して水を汲み上るには河南にては牛馬を用ゆるを見しが山西に入りては全然人力に依る。

此一帶の農作物中最も灌水を必要とするものは玉米にして、地方民の常食品たり、灌水の爲め井より水を汲み上ぐるには木桶を用ゆるものと柳又は荊條を

用ゆるものと二あり、後者は荆條又は柳枝にて籠を作り漆を塗りたるものにして甚だ輕便なり。

河南の北邊に於ける肥料は貯藏の設備なきを以て人糞の如き殆ど肥料として顧みられず、又一方より充分なる肥料ありとするも、土地の乾燥甚だしく降雨なき時は其効甚小なるべく、是亦此地方に於て土地の施肥を忽諸に附する理なるべし。

第二節 新安縣附近の農業

新安は洛陽に近きを以て農業狀態等洛陽縣と異なる所無けれども、西するに従ひ土地瘦瘠なるの感あり、米は洛陽縣より來ると雖も其實洛陽縣の產出に非らず、洛陽、新安間既に汽車を通ずれども鐵路の建築極めて粗にして、一日二、三回車を通ずるに過ぎざれば、未だ開運の期に至らず、市面蕭條、白米を賣る店二、三を見たるも、住民の常食は粟、高粱の類を以て製したる饅々なり、經過の地方左右平地少なく、丘と丘との間を僅に耕して粟、豆、高粱、胡麻の類を植ゆ。

第三節 澠池縣及陝州の農業

新安より澠池に至る道路は大道に屬すと雖も、泥濘深く、交通機關の便惡し、經過する所丘多く、偶々耕作地を見ると雖も、荒蕪甚だしく、住民農を業とするも専心ならず、粟は到る所に栽培せられ、近縣に移出すと云ふも其の額多からず。

澠池より陝州に至る中央に硤石鎮あり、山間の一鎮にして住民多く牧畜を業とし、耕作に従事せず、此の附近は總て丘陵にして耕作に適せざればなり、澠池より硤石に至る百二十支里其間土地は丘陵起伏し豐饒ならず、粟の栽培せらるゝもの多く、高粱之に次ぐ、其成長不齊或は已に穂の出でたるあり、或は未だ高さ尺に充たざるあり、米の產出極めて少量にして、粟、高粱の類を一般に常食に充つ、且つ粟湯を製して飲料に代ゆ、大杯一碗四文、到る所の茶屋及樹陰に之を賣る。

棗は此の附近の特産にして饅々及棗飯(縣内に産する少量の米は多く之に使用せらる)に入れて用ゆ、果物類は比較的多く産し、甜瓜を最とす。

附近一帯農民少なく、且つ極めて遊惰なり、日中炎暑甚だしきにも依るべしと

雖も田圃に耕す者一人も見ず。

田畑は四周山丘なるを以て、其面積大ならずと雖も、低き丘を開きて耕作地とせる所比較的多く、道に近き丘の八合目位まで耕されたるを見る、然れども其の土地肥えたるにあらず、且つ何物をも栽培せざる地域少なからず、是れ最近開墾したるものなるべし。

陝州縣城南門外に米田あり、二、三畝に過ぎず、手入不行届の爲め田水殆ど稻を沒せんとし、成長極めて不良なり、此の小部分の外殆ど陝縣内米田を見ず。

第四節 靈寶縣の農業

陝縣より西潼關に至る間路黄河の南岸近く走る、南方二、三十支里を隔て、山岳東西に連亘するも其間土地稍開け、左右の平地には（所々に丘あり）棉花最も多く、粟、高粱の類少なし、殆ど陝縣より靈寶に至る間は、棉花を以て満たされたりと云ふも尙過言にあらず、其の長さ五、六寸より高きは一尺に及ぶ（七月二十三日）花を開けるものあり、種類は支那在來種にして花を着くる事少なし、豆類は棉花の

間作として植えられたるもの少なからず。

本縣に産する棉花は即ち河南省の棉花として知られたるものゝ一部にして西方一帯に産する棉花と共に陸路東方に送られ、遠く漢口、天津の市場に現はるゝものなり。

第五節 閿鄉縣の農業

靈寶縣より此の地に至る間尙棉花の栽培盛なり、南方秦山々脈に至る間丘陵多く、丘と丘との間に平地の存するものもあるも多からず、道路と黄河に至る十支里位の間平地あり。

土地黄土層にして惡しく、棉花の成長不良なり、且つ頃日の早に下葉を枯らし生氣なし、土地高燥にして夜露下り作物の成長に極めて害あり、其他高粱所々に散見す。

而して地高からず黄河の流域に位するを以て、一朝連雨水漲るに遇へば、耕地一帯濁流の浸す所となり、農民を苦しむること大なり、毎年閿鄉縣内七十萬斤の

棉花を出すと雖も、水害を蒙むる時は其の半をだに穫ること能はず。

棉花百斤の相場は約十四兩にして、粟は二斗の價二吊五百文に上ることありと云ふ、大豆は西方より移入す、米田は縣内百畝に充たず、米價一斤六十五文なり。靈寶縣城を出で、直ちに函谷關の嶮あり、此の附近は耕地少なく、閿鄉縣に近づくに従ひ、黄河の岸に出で、耕地稍多し。

閿鄉縣を出で、潼關に至る間は隧道の如き路を進む、屢々丘上に至りて、四顧すれば、尙棉花を植えたる所少なからず、其他高粱、麥、瓜等あり、斯くして潼關城に至れば地は黄河に落ちて、南方は丘陵高く聳え所謂金陵關の嶮をなす。

要するに洛陽以西は丘陵多くして耕地少なく、洛陽より西するに従ひ文化開けず、交通不便にして耕作地として見るべき所なし、只靈寶閿鄉二縣の棉花のみ注目に價す、農耕斯くの如く盛ならず、住民農に志すも得る所其の勞を償ふに足らざるの故を以て、耕作に熱心ならず、地は益荒廢に歸し、民は益窮境に陥り、斯くの如くして如何ともするなきに至り遂に匪と變じ、行路の人を害し騷亂を醸すを常とす、由來河南の地土匪多きは全く其の土地の富まざるに基因せるは明白

の事實なりとす。

第六節 開封歸德間の農業

第一 概説

農作 開封、陳留、杞、睢、歸德は皆黄河の南岸に在り、一帯の平野をなし、土地の高低を見ること無し、此等の地方は昔時黄河の汎濫せる土地にして、地質は黄河の上流より洗ひ來れる砂より成り、濕氣を保つこと少なきを以て水田を作る能はざるは勿論、若し夏季晴天打續き土地乾燥するに於ては黄塵と化し沙漠の如き觀を呈す、然れども降雨適當なる年に於ては畑作良好なりと云ふ、今其の農作物を見るに次の如し。

春作 高粱 粟 穀粟 芝麻 麻 黄豆 甘藷

秋作 麥 豌豆

其の作付反別の百分率を擧げんに

春作

秋作